

「読む調査」から「判断する調査」へ ～生成 AI と実現する新たな調査プロセス～

ウェビナー開催レポート

2026年2月18日、「生成 AI と実現する新たな調査プロセス ～特許調査のパラダイムシフト～」と題したウェビナーを開催しました。当日は、多数のお客様にご参加いただきました。

本ウェビナーでは、研究開発および特許調査の実務に長年携わり、現在は AI・技術情報アドバイザーとして活動している安藤俊幸氏を講師とし、実務に即した生成 AI 活用をテーマに解説しました。

特許調査における「膨大な文献の精読」「ノイズ除去にかかる時間」「調査品質とリソースの両立」といった課題に対し、生成 AI を活用した新しい調査の考え方をご紹介しました。面倒な“読む作業”は AI に任せ、人は“判断”に集中するという、AI との新しい協業のあり方や、生成 AI を利用した特許調査・分析における「人の役割」についても整理し、ご紹介しました。

開催後には、以下のようなお声を頂戴しております。

- ・講師の実務経験を交えた説明で、AI 技術の進歩や知財業務への活用方法が理解しやすかった。
- ・他社特許クリアランスにおけるノイズ除去の時間短縮が、自社の課題と重なっていると感じた。
- ・講師の長年の経験を通じて、知財業務の難しさを改めて認識した。今後は AI ツールの活用がより重要になると感じた。

ASU では今後も、生成 AI を活用した知財業務の高度化を通じて、お客様の業務効率化と価値創出を支援します。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

ASU 関連サービス：生成 AI 連携サービス Aicrea

https://www.asu.co.jp/solution/ip_legal/ip_dept/aicrea.html

2026年2月27日

株式会社 ASU